

「強羅文の郷等のあり方について（中間のまとめ）」へのご意見に対する区の考え方

1 意見募集の概要

件名	強羅文の郷等のあり方について（中間のまとめ）
意見の募集期間	平成21年12月10日（木）から平成22年1月12日（火）まで
意見の提出方法	電子メール（5人）、郵送（1人）、FAX（1人）、持参（2人）
意見提出者数	9人
意見総数	12件（類似の意見は、まとめさせていただきました。）

2 ご意見に対する区の考え方

（1）強羅文の郷の存続に関する意見

No.	いただいた意見（要旨）	件数	区の考え方
1	建物自体は古く、外見は悪いが、温泉がすばらしく、いろいろなサービスも良くて、スタッフの温かいもてなしに癒される。補助金が出ることも助かる。補助金が多少減額されても仕方がないが、このくらいのサービスがあっても良いのではないかと。	2	<p>強羅文の郷につきましては、施設の老朽化と耐震性から施設の存続が困難なことや、区民利用者の減少等の課題があるため、今後の施設のあり方について検討してまいりました。</p> <p>区民の保養施設として、現在の強羅文の郷を継続すべきとのご意見をいただきましたが、現在の施設の維持が困難なことから、区民に保養と心身のリフレッシュの場を引き続き提供できる新たな方向性も含めて検討を進めております。</p>
2	毎年利用していて、非常に良い施設と感じている。区民利用の減少は、区民の財政事情が悪くなったからで、施設のメリットが減ったわけではない。宣伝をして、利用者を増やすべきではないかと。	1	<p>具体的には、ホテル・旅館業を行う民間事業者に土地を貸付けることで、より魅力ある施設の建設と運営が民間ノウハウによって活かされ、また、区民が優先的に宿泊施設を利用できるように土地の貸付条件を設定することで検討を進めております。</p>
3	存続を希望する。立地条件、環境もよく、料金も他区施設より格安で、よく利用している。露天風呂を設置すれば、利用者の増加は見込まれると考える。	1	<p>区民へのPRにつきましては、これまでも、区報、ホームページ等によりお知らせしており、今後はこれらに加えて、借受事業者の宣伝媒体も活用して、より広範なPRが可能になると考えております。</p> <p>また、露天風呂の設置につきましても、民間の経営のあり方の中で、利用者の需要に応えた魅力ある施設設計の中で検討されるものと思われまます。</p>

4	強羅文の郷は建て替えて、民営化のまま存続してほしい。	1	区が施設の建て替えを行うことにより発生する、解体工事と建替えに係る多大な経費負担や維持管理に係る経費負担から効果的ではないと考えられます。
5	<p>改築賛成、売却反対。</p> <p>平成17年度以降の区民減少の一因は、私も同様で、民営化後に、一般料金を値上げしたため、他区の綺麗で安い箱根の保養所を利用している。急坂の上にある行きづらい所で、岩風呂は危険な作りで、食事の量が多く食べきれないといった施設は選ばない。</p> <p>昼間も休憩できるよう食堂や喫茶店を開けば収入は増えるし、綺麗な宿泊場所で他所より少しでも安ければ客は増える。</p> <p>区税をただ補助金として支出するだけでなく、どれだけの負債軽減努力がなされて区税が活用されているか、チェックする責務がある。</p> <p>今、売却しても、1/3 価値の価格以下になると思う。将来の負担は減っても、過去の負債は大して穴埋めされず、更に収入源はなくなってしまいうというのでは、安易な経費軽減である。</p> <p>経営会社を変更してみることも必要ではないか。</p> <p>広報の仕方では、将来、区の保養所があるとこいうことで文京区に定住することに繋がるかもしれない。</p> <p>少子高齢化で、東京から近く、駅から近い強羅の施設は、大変有難い存在になっている。</p>	1	<p>強羅文の郷について、建物は廃止することを考えております。土地は、現在の景気動向の中で、民間事業者への売却の可能性が不確実であるため、民間事業者に貸し付け、新たな宿泊施設の建設と区民が優先的に宿泊施設を利用できるように、土地の貸付条件を設定することで検討を進めてまいります。</p> <p>また、ご意見の経営会社の変更については、民間ノウハウを活かして、より魅力ある施設の建設と運営が図られるよう、プロポーザルにより借受事業者を選定していくことを検討してまいります。</p> <p>このことにより、区民に保養と心身のリフレッシュの場を引き続き提供するとともに、将来にわたる施設の維持・財政負担を軽減していきたいと考えております。</p>

(2) 湯之谷やまびこ荘の存続に関する意見

No.	いただいた意見 (要旨)	件数	区の考え方
1	<p>交流事業は非常によかった。</p> <p>施設の有効利用を考え、自然観察等の事業を行い、広報すれば、必ず区民は一層満足を実感する。</p>	1	<p>湯之谷やまびこ荘における交流事業の継続と一層の充実を図っていく中で、魚沼市にある自然の良さを活かした自然観察等の体験ができるような交流事業も検討していきたいと考えております。</p>

2	魚沼市からも相応の負担金を出してもらいつつ、民営化に移行してはどうか。	1	<p>魚沼市はこれまでも湯之谷やまびこ荘の運営にあたり、土地の無償貸与という一定の負担をしております。民営化後も土地の無償貸与が継続されることについては、魚沼市に確認をしております。</p> <p>ただし、湯之谷やまびこ荘の民営化にあたっては、大幅な収入増と支出の縮減による安定的な経営が必要であるが、施設の収容人員が少ないことや料金改定による利用者数への影響などを勘案すると、収支状況の改善はかなり厳しいものであると考えられます。民営化が困難な場合には、施設の廃止の方向性も考え、今後検討を進めてまいります。</p>
---	-------------------------------------	---	---

(3) 施設の廃止に関する意見

No.	いただいた意見（要旨）	件数	区の考え方
1	<p>強羅文の郷・やまびこ荘とも廃止。旅館・温泉はあまた存在し、そもそも存在意義がない。</p> <p>また、少子高齢化で利用客が増加に転じ、経済的に維持できる見込みは皆無である。</p> <p>耐震工事などの公金投入は論外である。土地は売却し、早く支出を止めるに限る。</p>	1	<p>強羅文の郷の土地を売却することについては、民間事業者にとって多大な取得経費を要するため、現在の景気動向の中では不確実であります。そのため、土地は売却するのではなく、貸付を考えております。</p> <p>湯之谷やまびこ荘の民営化にあたっては、大幅な収入増と支出の縮減による安定的な経営が必要であるが、施設の収容人員が少ないことや料金改定による利用者数への影響などを勘案すると、収支状況の改善はかなり厳しいものであると考えられます。民営化が困難な場合には、施設の廃止の方向性も考え、今後検討を進めてまいります。</p>
2	<p>強羅文の郷は、区民利用者が減少し、施設の耐震性に問題がある状況では、今後の財政負担を考えれば廃止はやむを得ない。</p> <p>箱根地区には優良な民間施設が数多くあるので、税金を使ってまで公的な施設を今後も維持していく必要性は乏しい。</p>	1	<p>強羅文の郷の建物については、廃止することを考えております。土地については、現在の景気動向の中では売却の可能性は不確実であるため、貸付が妥当と考えております。</p> <p>強羅文の郷は、長年にわたり多くの区民に利用されてきましたので、この土地の借受事業者が、新たな宿泊施設の建設と運営を行い、区民に保養と心身のリフレッシュの場を引き続き提供していくことで検討を進めてまいります。このことにより、将来にわたる施設の維持・財政負担が軽減されるものと考えております。</p>

3	<p>やまびこ荘は、区民利用の伸び悩み、施設の老朽化の問題がある中で、運営を民営化するというだけでは、問題を先送りするだけの中途半端な対応と考える。</p> <p>やまびこ荘は場所が遠すぎ、気軽に行ける立地ではない。昭和 50 年代であれば、交流事業の貴重な拠点であったかもしれないが、現在では、もっと手軽で近いところで自然体験をすることは可能である。</p> <p>文京区が、本気で交流・体験の場として活用したいと考えるのであれば、なぜ区の主催事業を平成 20 年度で中止したのか。例えば区主催事業を企画競争により民間委託して回数や内容の充実を図るといった抜本的な「テコ入れ」は考えられなかったのか。</p> <p>区として、積極的に交流事業を進める気がないのであれば、やまびこ荘も赤字を垂れ流すだけになるので、廃止すべき。運営の民営化という問題を先送りするのではなく、区として廃止の方向性を明確にした上で、魚沼市と協議すべきと考える。その結果が、運営の民営化という結論になるのは結構である。</p>	1	<p>湯之谷やまびこ荘が抱える課題を解決するためには、運営方法の見直しが不可欠であり、利用者サービスや区の財政負担を勘案すると、民営化がもっとも効果的であると考えております。</p> <p>ただし、民営化にあたっては、大幅な収入増と支出の縮減による安定的な経営が必要であるが、施設の収容人員が少ないことや料金改定による利用者数への影響などを勘案すると、収支状況の改善はかなり厳しいものと考えられます。民営化が困難な場合には、施設の廃止の方向性も考え、今後検討を進めてまいります。</p> <p>また、湯之谷やまびこ荘における交流事業については、スキー場管理組合主催事業が、区主催事業に比べ、回数・内容ともに充実が図られ、地域の人材や農家とのつながりを活かした魅力ある事業となっておりました。したがって、今年度からスキー場管理組合主催事業に一本化して、更なる充実とPR強化に努めております。</p> <p>湯之谷やまびこ荘の民営化にかかわらず、今後とも充実した交流事業が継続できるよう、魚沼市や関係機関と協議を進めてまいります。</p>
---	---	---	---

(4) 施設に関するその他の意見

No.	いただいた意見（要旨）	件数	区の考え方
1	<p>「強羅文の郷」及び「湯之谷やまびこ荘」交流事業のあり方の中間報告を読んで納得した。</p> <p>近年、合理化の名のもとに、職員が減らされ、区民のための施設や事業が縮小されている。しかし、21 世紀を見控した時、区民の福祉施設はどうあるべきか、原点に立返ったグローバルな論議が必要だと考える。</p>	1	<p>「強羅文の郷等のあり方について（最終のまとめ）」についても、ご理解いただけるよう、検討に努めてまいります。</p>